

平成 18 年 12 月 8 日

東京会場

於：湯島聖堂

中斎塾準備フォーラム 講話

中斎塾フォーラムの目的について申し上げます。

今の世の中を見ていて、素晴らしい世の中だと思う方は少ないと思います。

親が子供を殺し、子供が親を殺すという時代はどこがおかしい、と思う方ばかりではないでしょうか。

この世の中で、自分はどのように生きていったら良いのだろう。

色々な事が起きているものを、どのように判断すれば良いのだろう。

なかなか、判断基準があるようでない世の中ではないかと思えます。

個人・家庭・地域・会社・社会全体・世界全体で起きている色々な問題について、どうすればよいのか、どう考えればよいのか・・・、その判断基準（私は＜本質・大局・歴史＞の判断の三原則と呼んでいます）をこの中斎塾の中で身に付けて戴くと有難いと思っています。

これが第一番目の目的になります。

そして判断基準が身に付いてきた時には、知らず知らずの間に、＜足るを知る＞という言葉に、どこかで皆ぶつかって戴くような会でありたいと思っています。

＜足るを知る＞という考え方が、身体の中に沁み込んで来る。

自分の身体に沁み込んだら、他の方へ＜足るを知る＞という日本古来から伝わっている言葉をプレゼントしたらどうでしょうか。

「有難うございます」「もったいない」「おかげさまで」・・・これらは日本から世界へ広げる良い言葉・良い考え方だと思います。

そういうものを世界に向かって発信していく場所に、中斎塾はしたいと思っています。

今は準備フォーラムという事ですから、皆様方のお知恵を戴きながら、一緒になって中斎塾を創っていきたいと思っています。

“生きていて良かった”“自分の子供や孫たちへ、良い日本をバトンタッチしていける”
そういうものの考え方を中斎塾の中でしっかり掴んで、実感を持って動けるような生活習慣を身に付けたいと思っています。

本日の講話は、最初に素読の体験をして戴いて、陽明学を一言申し上げ、最後にアルゼンチン・ペルーの話をさせて戴きます。

では、素読を致します。

素読は三つルールがございます。

- 1．背筋を伸ばします。
- 2．目線を定めます。まっすぐ前を向いて、目線は若干高めにして下さい。
- 3．良い声を出しましょう。

(素読)

**吾十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、
五十にして天命を知り、六十にして耳順う、
七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず**

背筋をピンとして良い声を出していると、後ろから押しても動きません。

実際にやって見て下さい。

素読は、特に子供さんには非常に良い教育です。

意味など教える必要はありません。

大きくなったら自然と覚えます。

覚えたいと思った時に、覚えるのです。

これが教育の要点です。

水が飲みたいという時に飲めれば、本当に身体に良い有意義な飲み水になります。

親が無理やり教えていたのでは、何の役にも立たない。

小さい時に種を植え付けておけば、後で必ず生きて来ます。

これが素読の効用です。

陽明学の一言を申し上げます。

「知行合一」・・・「ちぎょうごういつ」と読む方もおられますが、私共は「ちこうごういつ」と読んでまいりましょう。

読み方によって、意味が違ってきます。

知行合一とは何か。

先ず動く事です。

その理由を一つ申し上げます。

私はこの間ロシア、つい先日アルゼンチンに行って来ました。

その目的は、日本はこれから経済破綻・国家破綻の状況になるだろうと思っています。

ロシアもアルゼンチンも経済破綻しましたが、国民はどうやって生き延びたのだろうか、その理由が知りたいと思ったからです。

本を読んだり話を聞いたりしましたが、腑に落ちませんでした。

それで、出かけて行ったら腑に落ちました。

これは知行合一です。

耳学問、目学問、色々な学問があるけれども、字面だけで見たものは単なる雑識にすぎません。

現地に行って自分の身体で味わってくると、身に沁み込みます。

ロシアの人達はなぜ生き延びられたか？

国の政策が悪くて国家破綻したわけですが、ロシアの人達は土地を政府から分けて貰って、自給自足して生き延びていました。

ただし生き延びられなくて飢え死にした人の数は、現地でも分かりませんでした。

学者の人の分析値によると、ソ連からロシアになって 3000 万人は死んだと言います。

正確には発表されていません。

現地の人に聞くと、「もの凄く死んだ・・・」ということでしたが、少なくとも 1000 万人はいるだろうと思いました。

実際にロシアに行ってみると納得が出来ました。

アルゼンチンは食べ物が豊富でした。

スーパーには食べ物が溢れていました。

べらぼうに安い値段で、食料は確保できました。

中南米の国々はこれほど食べ物が豊富だから、飢え死にはしていないのだなと思いました。

ただし収入は少ないですね。

これは出かけて行って、体験する事によって分かった事です。

知行合一とは、行動する事によって学問と現実を照らし合わせて、「なるほど」と思った時に身体に入る方法です。

知行合一・・・行動する学問である陽明学を代表する言葉だと思って下さい。

したがって耳学問だけでいく場合は、ちょっと「？」をつけて戴きたい。

余談ですが、「切磋琢磨」という言葉がございます。

「切」とは、原石の中から素晴らしい宝石を見つけて切り出す、第一行程です。
木目と同様に宝石も切断する場所がありますから、一番良い所でスパッと切断する。
世の中に出す為の第一行程は「切」です。

我々で考えると、独立して社長になった時が、「切」です。

社長になるのは簡単ですが、続けるのは難しい。

「磋」とは、切った石をやすりで研ぐ行程です。

「磋」の時は、朝・昼・夜関係なく滅茶苦茶に働く時です。

ですから一般社会から受ける評価は、「おもしろい社長だね・・・」という事で、とんでもない可能性を秘めた若々しく未来に期待の持てる社長、という評価になります。

「琢」は、砥石で研ぐ段階です。

「琢」になると、「私もここまで来たか。我ながら大したものだ・・・」と少し鼻が高くなる。

地域でJCやロータリー、ライオンズ、経済同友会などに入ってそれなりに活動している。

そうすると大体仕組みが出来てくるので、目の色を変えなくても、仕事もほどほどに入ってくるし、ほどほどにこなせる。

良い循環が続いているから、その人の能力によって年商は違うけれども、会社も大体回るようになるものです。

しかし「琢」の段階は、肉眼では分からないけれども顕微鏡で見れば粗が見える。

社長として伸びが止まる時です。

「私もここまで来たか・・・」と思ったら、ここでおしまいです。

ただ、もっともっと学びたいという気持ちがぐんぐん湧き上がって来ていれば、「磨」の段階に入って来ます。

そうなると超一流です。

社長としても、良い縁が出来てくる。

縁尋機妙という状況、素晴らしい人脈・仕事がどんどん広がって入ってくる。

それが「磨」の段階です。

以上、「切磋琢磨」をご説明致しました。

では、これからの日本をアルゼンチンとペルーの視点で見いきましょう。

60年サイクルで日本を見る視点を何度も申し上げています。

60年前の日本は、凄まじいインフレが起きて、預金封鎖が起きて、銀行からお金が下ろせない。

国民の財産を政府が巻き上げた時代です。

教育制度が全部ひっくり返された時代。

食べ物も自由に売れない、自由を買えない時代でした。

60年前の日本については、昭和21年2月17日付けの新聞を見て戴くと、そのあたりの経緯が出ていますのでどうぞお調べ下さい。

これを踏まえて、これからの日本はどうなるのかについては、ネバダレポートをお調べになれば良いと思います。

ネバダレポートでは、日本が破綻したらこうなるという処方箋が紹介されています。

具体的には、国家公務員・地方公務員の退職金は全額カット、給与3割カット。

公共事業全面凍結。

消費税を20%にする。

年収100万円の人からも税金を徴収する。

・・・等々です。

山田方谷の『理財論』で見れば、国がおかしくなって来る時には、重箱の隅をほじくったような税金を国民に課す事になります。

過去の日本を見、これからの日本の処方箋を踏まえて、どうしても私が知りたいと思ったものは、最近経済破綻を起こした国々へ行って現実の姿を見て来たいという事でした。

それでロシアに行き、アルゼンチン、ペルーに行きました。

そこで分かった事は、国が滅びる時は、べらぼうな借金をして行き詰まり、国が借金の踏み倒しをするという事です。

流れとしてみましよう。

国が借金をする。

国債をどんどん発行して、国が借金に借金を重ねる。

日本の国債は、最近海外でも売り出しましたが、買う人はいませんね。

今日本の国債を、国民個人が買い出しています。

紙くずになる国債を、個人がなぜ買うのでしょうか。

そうやってどんどん国が借金をして、それが膨らんでどうにもならなくなってくると、インフレが始まります。

アルゼンチンは5000%でした。

ロシアで言うと、日本円で1億円相当のルーブルをアメリカにドル預金した人が、ソ連からロシアになってドルを戻した時には、1000億に化けていたそうです。

インフレは凄まじいものです。

特にロシアのやったデノミは単価の切り下げではなくて、一瞬にしてお金持ちを貧乏人に変えたようなデノミをやりました。

国が借金体質でどうにもならなくなって行き詰ると、次に起きるのは凄まじいインフレです。

これはロシアもアルゼンチンもペルーも同じです。

凄まじいインフレが起きると、次に起きるのはデノミです。

デノミは通過を変えて、通貨の価値を下げる事です。

そうすると若干便乗値上げがあります。

ペルーもアルゼンチンも便乗値上げでした。

ロシアは便乗値上げではない。

一変に価値を変えるものでした。

デノミの次に出てくるものは、預金封鎖です。

預金封鎖は、銀行に預けていたお金を、ある日突然下ろせなくなる。

アルゼンチンは、預けていたお金を凍結されたが為に、中小企業は倒産しました。

預けていたお金が、ある日突然下ろせなくなる。

下ろせる時は紙くずに変わっていましたから、アルゼンチンの人達はパンクです。

日本も 60 年前はパンクしています。

預金封鎖に至ると、次に来るものはデフォルトです。

ロシアもアルゼンチンもデフォルトしました。

< 今まで借りているお金は返しません > < 国債は償還しません > . . . いわゆる借金踏み倒し宣言です。

アルゼンチン・ペルーの視点で日本を見たら、日本は今、間違いなくその道に進んでいます。

次に、ブラジル・ペルー・アルゼンチンの治安について申し上げます。

アルゼンチンに行った時に、群馬県人会の人が私を迎えて昼食会をしてくれました。

昼食会にした理由は、夜が危ないからです。

夜が危ない . . . 想像で聞くと単なる知識です。

しかし現実に昼食会をして戴いて、県人会の会長さんから、

「昼食会にした理由を最初に言うと、あなたが来なくなるかもしれないから言わなかったのです。アルゼンチンは最近物騒になりました。うちの家族も皆、襲われています。だか

ら夜の食事会はやめたのです。」と言われました。

ブラジルの人にお会いしたら「アルゼンチンは治安がいい。ブラジルから見ると天国みたいです。」と言われました。

私も本当にそう実感しました。

なぜならばアルゼンチンはまだ、警察官がそれほど泥棒をしていませんね。

ブラジルでは、警察官が泥棒や強盗をするなど、珍しくも何ともありません。

ごく普通の事のようにです。

最後にロシアとアルゼンチンの比較を致します。

決定的な違いは、食べ物です。

どちらも国家として経済破綻時はとても酷い状態に陥るけれども、食べ物を自分で自給自足できるように努力した国と、食料が豊富にもとからあって飢え死にしない国とでは、違います。

日本人として今私が考えなければいけないと私が思っている事は、日本はどちらに進むかです。

日本は食料が豊富な国なのか、ない国なのか・・・ご存知の通り、自給率 40%を割っていますから、当然自分で自給自足しなければならないわけです。

アルゼンチン・ペルー・ブラジルに行って感じたことは、我々は自給自足するようにならなければならないという事です。

自分に縁のある人が御飯が食えるようにする・・・私の大きなテーマになったと思っています。

そのうち日本でも預金封鎖が起きるでしょう。

アルゼンチンの人で一部の方は、こうやって切り抜けたそうです。

アルゼンチンの預金封鎖があった時には、お金を下ろせないのだけれども、全額ではなかった。

1日 100 ドルという範囲の中で、普通預金は下ろせたそうです。

そこで、毎日 100 ドルを下ろしたそうです。

銀行間の移動も最初のうちは出来たので、預金をいくつもの銀行に振り分けて、毎日 100 ドルずついくつもの銀行を駆けずり回って下ろして歩くわけです。

そうやって、かなりのお金を下ろす事が出来たそうです。

実際に被害はどれくらいだったかお聞きしましたら、「またか、またか・・・と何度も国に騙されているので、今回は半分残った」と言っていました。

日本は、「そんな事があるわけない、まさか・・・」の国です。

「またか」の国にならないように期待をしていますが、多分「まさか」が本物になると思います。

ですから、これから1、2年がすごく大事な時だと思います。

陽明学は行動の学問です。

我々は行動する事によって、その体験を活かして、来年4月から中斎塾フォーラムは正式スタートですので、それから先は対策を一緒になって練っていきたいと思っています。

以上です。

有難うございました。